

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		10/30-11/6	11/6-11/13	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.160	0.140
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.035	0.033
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.021	0.020
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.081	0.047
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.041	0.038
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.023	0.019
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.034	0.027
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.047	0.049

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		10/30-11/6	11/6-11/13	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.032	0.020
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.012	不検出

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説 ●

第121回目
大気浮遊じん放射能測定結果の解説
(2019年10月30日~2019年11月13日)

今回の大気浮遊じんのセシウム137濃度の平均値は、0.04~0.06mBq/m³と低い値であり、健康影響を心配することはありません。セシウム137は、自然界には存在しない核分裂生成物ですが、今から30年ほど前の1980年代まで行われていた大気圏内核実験やチェルノブイリ原発事故などにより世界中に拡散しました。セシウム137の半減期はおよそ30年ですので、この時拡散したセシウム137も半分近くは残存していることになり、場所によっては300Bq/kg程度が残っていると考えられています。現在の科学知識に照らせば、この程度の汚染状況では健康影響はありませんが、これらの過去をしっかりと後世に残し、私たちを含め将来の人達がリスクを負わないように知恵を絞ることが大切と考えます。